

Heart of Tajimi
— たじみ市民討議会 2018 —

実施報告書



2018年11月

たじみ市民討議会 実行委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 「たじみ市民討議会 2018」について	2
2-1. 概要	2
2-2. 協定書締結	2
2-3. 運営組織	2
2-4. 実行委員会	2
2-5. 活動実績	3
3. 討議会の実施について	3
3-1. テーマ選定について	3
3-2. 参加者について	4
3-3. 謝礼について	4
3-4. 討議の方法	4
3-5. 情報提供について	5
3-6. 話し合いのルール	5
4. 討議会の結果と市民からの提言	5
5. 「たじみ市民討議会 2018」の検証	8
6. 「たじみ市民討議会」の今後の取り組み	8
6-1. 参加者の減少	8
6-2. 今後の継続性について	8
6-3. 事後のフォロー	8
7. 協賛者ご挨拶	9
8. 終わりに	10
資料 1. 話し合いシート	11～30
資料 2. 参加者アンケート	31～33

1. はじめに

本報告書は「たじみ市民討議会実行委員会」が多治見市役所と協定を締結し、(一社)多治見青年会議所のご協力を得て実施した「Heart of Tajimi -たじみ市民討議会 2018-」について、報告するものである。

2018年の「たじみ市民討議会」は6月30日、7月1日に多治見市民21人の参加を得て実施された。コンセプトとして「住みやすいまち たじみ」を掲げ、「超高齢化社会」に焦点を当てて、「介護について考える『きっかけ』作りのために、どんな仕組みが必要ですか?」「元気な高齢者になるために、どんな仕組みが必要ですか?」「高齢者が子どもを持つ親を支援できるようにするために、どんな仕組みが必要ですか?」「高齢者の知見と経験を次の世代に引き継ぐために、どんな仕組みが必要ですか?」の4つのテーマについて話し合いを行って頂いた。さらにその結果を検証し、集計・分析をして多治見市に対して提言を行った。



「たじみ市民討議会 2018」参加者の皆さん

2. 「たじみ市民討議会 2018」について

2-1 概要

「たじみ市民討議会」はドイツで提唱された「プラーヌクスツェレ」を参考に、2009年に（一社）多治見青年会議所が、「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2009ー」と題して、第1回「たじみ市民討議会」を企画立案し、以後2012年に市民による実行委員会を立ち上げ、本年に至る10年間、継続して実施している。

「たじみ市民討議会」は広く市民の「声なき声」を集約すべく18歳以上の多治見市民を対象に、住民基本台帳を基に無作為抽出された1,600人に対して参加依頼書を送付し、参加を受諾された市民により、年ごとに設定したテーマに沿って話し合いを行って頂く。そこで出た意見を集約・合意形成した結果を市政に提言を行う市民活動である。

2-2 協定書締結

「市民討議会」を実施するにあたり、実行委員会と多治見市との間で「協定書」を締結した。協定の内容は、実施の目的、相互の協働の精神に基づく原則、役割と責務などを明確にし、確認するものである。



協定書締結式の様子

2-3 運営組織

実行委員会は市民委員30人で次のように組織した。

- ・実行委員会委員長（1人）、副委員長（2人）、顧問（1人）で運営し、会を代表する。
- ・運営にあたって必要に応じて運営委員（若干名）を招集して運営方法を協議した。
- ・オブザーバーとして（一社）多治見青年会議所「次代を担う青少年育成委員会」のメンバー、多治見市企画部秘書広報課の職員にも参加して頂いた。

2-4 実行委員会

実行委員会は、都度議事テーマを決め、2回／月の頻度で開催した。活動の記録は、次項2-5「活動実績」に記す。

2-5 活動実績

2017年12月から2018年9月までの間で活動をした。

第1回 キックオフ（役員選出）

第2回 活動方針について

第3回 討議テーマについて（方向性の確認）

第4回 討議テーマについて（方向性の確認）

第5回 討議テーマについて（「高齢化社会」に焦点を当てることを議決）

「協定書」調印（4月9日）

第6回 討議テーマの検討（討議テーマ・小間数について議決）

第7回 情報提供について（内容の検討）

第8回 情報提供について（発表者の検討）

第9回 情報提供者によるリハーサル

第10回 模擬討議

第11回 模造紙準備、模擬討議

会場設営（6月29日）

「市民討議会」（1日目）開催（6月30日）

「市民討議会」（2日目）開催（7月1日）

第12回 反省会、提言書の策定

第13回 提言書の策定

第14回 提言書の策定

第15回 提言書の策定

第16回 提言書の策定・議決

「中間報告会」（9月1日）

「提言書」提出（9月27日）

3. 討議会の実施について

「たじみ市民討議会」は以下の要領で実施した。

討議会は5～6人の単位で4グループを作り、2日で4テーマについて参加者同士で意見交換をする。また、テーマごとにグループ編成を行い、メンバーの入れ替えを行う。

3-1 テーマ選定について

テーマ選定にあたっては、市民の共通の関心事で市政との協働が可能なものとする
ことを意識して議論を重ねた。また、市民としてやるべきこと、できる事が明確にイ
メージでき、市政に対しては具体的な提言ができる事を念頭に置いた。

コンセプトとして「住みやすいまち たじみ」とすることとした。

6回にわたる実行委員会を経て、多治見の魅力をも再認識するとともにその魅力をど

のように生かしていくかをについて市民から幅広い意見を求め、市政に提言するために「超高齢化社会」に焦点を当てた討議テーマを選定した。

- ① 介護について考える「きっかけ」作りのために、どんな仕組みが必要ですか？
- ② 元気な高齢者になるために、どんな仕組みが必要ですか？
- ③ 高齢者が子どもを持つ親を支援できるようにするために、どんな仕組みが必要ですか？
- ④ 高齢者の知見と経験を次の世代に引き継ぐために、どんな仕組みが必要ですか？

3-2 参加者について

参加者は多治見市で管理される「住民基本台帳」から18歳以上の市民を無作為に抽出して1,600人に「参加依頼書」を郵送し、24人から参加の回答を得た。参加回答者のうち3人は当日までに事情により不参加の連絡があり、当日の参加者は21人であった（うち、初日のみの参加は1人）。

3-3 謝礼について

参加者に対しては、2日間の参加を条件に6,000円の「謝礼」をした。単に「謝礼」と言うだけでなく、各自の発言には責任を持って頂くという意味合いがあり事前説明で確認をした。

3-4 討議の方法

討議は次のように行った。

[グループ討議]

話し合いは、実行委員が補助係（2人／グループ）としてサポート。進行係は参加者が行い自由な話し合いを行った。それぞれの意見は付箋に記載して、準備した模造紙に貼り付けた。

[まとめ]

話し合いの結果は「まとめ1」「まとめ2」「まとめ3」として模造紙に記入して合意形成をする。「残したい意見」があれば併記する。

[発表]

まとめた意見の内容をグループごとに発表を行う。全てのグループの模造紙を一覧として張り出す。

[投票]

各グループでまとめた全グループの意見は、参加者全員が各々賛同する「まとめ」、「残したい意見」に投票する。

3-5 情報提供について

グループ討議に先立ち専門家、先進活動グループなどによる「情報提供」を行う。

「介護について考える『きっかけ』作りのために、どんな仕組みが必要ですか？」については、介護制度を理解して頂くために多治見市福祉部高齢福祉課長の杉村哲也さんが説明した。

「元気な高齢者になるために、どんな仕組みが必要ですか？」については、市が取り組んでいる「たじみ健康ハッピープラン」などの施策について、多治見市保健センター副所長の谷口知子さんが説明した。

「高齢者が子どもを持つ親を支援できるようにするために、どんな仕組みが必要ですか？」については、子育て支援の NPO 法人 Mama's Café 理事長の山本博子さんが事業内容と事例を発表した。

「高齢者の知見と経験を次の世代に引き継ぐために、どんな仕組みが必要ですか？」については、当たじみ市民討議会実行委員会立ち上げからのメンバーで現顧問の竹本幸二が説明した。

3-6 話し合いのルール

話し合いのルールとして、次のことを確認し合った。

- ・参加者は親しみを込めて「さん」づけで呼び合う
- ・全員が発言する（発言できるよう配慮する）
- ・他の意見を全否定しない
- ・テーマについて結論を出す
- ・自由に意見を出す
- ・アイデアの実施、実行の可否にこだわらない
- ・他の意見を参考にしても良い

4. 討議会の結果と市民からの提言

討議会の結果は、模造紙に記載された「まとめ」意見を基に精査し、投票の多寡を考慮して「提言書（案）」を策定。中間報告会で参加市民の承認を得て「提言書」として次のように作成し、2018年9月27日に古川多治見市長に手渡した。



提言書提出式の様子

提 言 書

「Heart of Tajimi ーたじみ市民討議会 2018ー」

平成 30 年 6 月 30 日、7 月 1 日に市民 21 人の参加を得て、市民討議会を実施しました。討議された意見を下記のとおり提言いたします。

大テーマ：住みやすいまち たじみ

中テーマ：超高齢化社会を迎えた今、私たちは何ができるのか？

討議テーマ 1：

介護について考える「きっかけ」作りのために、どんな仕組みが必要ですか？

- ・介護に触れる機会の創出を求めます。

介護を学び、体験するために、多治見まつりで介護ブースを出したり、学校で介護教育を行うことを求めます。また、コンビニなど人の集まる場所で、介護制度の情報に触れることが出来る工夫を求めます。

- ・介護ポイント制度の導入を求めます。

介護に関わるボランティア活動に参加することで取得でき、介護を受ける時に利用したり、介護用品に交換できる介護ポイント制度の導入を求めます。

討議テーマ 2：

元気な高齢者になるために、どんな仕組みが必要ですか？

- ・健康マップの作成を求めます。

既存の「ウォーキングコース 100 選マップ」に加え、車椅子や杖でも参加できるコースの記載や、バリアフリーのトイレが表示されたマップの作成を求めます。

- ・食を学び、体験できる機会の創出を求めます。

生活習慣病などを予防するために、子どもから高齢者までが一緒に健康と食を学び、体験できる機会の創出を求めます。

討議テーマ 3 :

高齢者が子どもを持つ親を支援できるようにするために、どんな仕組みが必要ですか？

- ・子どもを持つ親の悩みとそれを解決できる高齢者をつなぐ仕組みを求めます。

子育てで悩みや困りごとを抱えるすべての人が、気軽に相談できる機会の創出を求めます。

町内会や民生委員への働きかけ、回覧板・チラシの配布などで支援できる高齢者と親をつなぐ仕組みを求めます。

討議テーマ 4 :

高齢者の知見と経験を次の世代に引き継ぐために、どんな仕組みが必要ですか？

- ・必要としている人とされている人とをマッチングする仕組みを求めます。

知識や技術を持っている高齢者と、それを必要とする個人や企業とつなぐこと、経験や歴史を講演会やカルチャースクールなどで多治見市の財産として残すことが必要です。そのために、65歳以上にアンケートを取り、技術や体験などを集約してマッチングする仕組みを求めます。

平成 30 年 9 月 27 日
たじみ市民討議会実行委員会
実行委員長 後藤美貴

5. 「たじみ市民討議会 2018」の検証

～たじみ市民討議会の有用性～

今年度のテーマは「高齢化社会」であったが、30歳代以下の参加者が全体の28%と多かった。若い市民の関心の高さがうかがえる。

市が主催する討論などの集まりに参加したことがない市民が75%も参加していることから、サイレントマジョリティの意見を取り上げることができていると思われる。

また参加者アンケートから、今回参加したことにより、多治見市のこと、高齢化社会・介護のことに関心を示す市民もあり、市民討議会の開催意義はあったと思われる。

6. 「たじみ市民討議会」の今後の取り組み

6-1 参加者の減少

今年度の参加者は、例年30人前後であるが、今回は21人と少数であった。

行政に市民の「声」として「提言」を行う討議会としては無作為抽出による参加者は、約7万人の対象者の0.05%（35人）以上の参加が望ましく、実行委員会としてSNSや広報紙、ラジオなどの媒体を最大限活用し、行政と協力してPRに注力したい。

6-2 今後の継続性について

現在、実行委員会は30人で運営されているが、ボランティアであるため入退会は任意である。

今後、この活動を継承し継続していくため、昨年より説明会を開催しているが、参加者は少数である。説明会の実施時期や、他に有効な方法を考えることが必要であると考え模索していく。

6-3 事後のフォロー

参加者に対しては「中間報告会」を設けて、「提言書（案）」を提示し、承認を得て「提言書」としている。また、多治見市のホームページには逐次「提言」の内容と「提言」に対する市政の取り組みを開示して頂いている。より多くの参加者にモチベーションを維持して頂けるよう、事後フォローについて検討する。

7. 協賛者ご挨拶

「地方創生」「地域活性化」という言葉が至る所で言われている中、我々（一社）多治見青年会議所は、「明るい豊かな社会の実現」という理念のもと運動を展開している団体として、「市民の声を行政へ届ける」といった行政と市民とのパイプ役を担うことは非常に重要であると考えております。

現在、地方自治体や各地青年会議所は市民の声を施策に活用するために、市民アンケートやタウンミーティング、市民会議等に取り組んでいます。しかし、これらに参加する市民は、元来行政に対して興味があることが想定され、限定的な意見が集約されてしまうという懸念があります。そのため、無関心層やサイレントマジョリティ（物言わぬ大衆）といった多くの市民を巻き込んだ協働のまちづくりを推進していく必要があります。このような状況の中で、我々青年会議所は市民参加の手法「プラーヌクスツェレ」を参考にした市民討議会に着目しました。具体的には、特定の分野に限らず、多種多様な分野の市民を無作為に抽出し、参加者を募り、討議を行い、その意見を集約し、行政に提言するというものです。この方法によって市民の自治意識の高揚を図りたいと考えました。

このような経緯で2009年より始まり、本年で節目の10年目を迎えます市民討議会ですが、根本の部分は当初から変わらずに開催が継続されております。現在では、市民主体の実行委員会が発足し、テーマ選定、運営に至るまで主導で行い、（一社）多治見青年会議所と多治見市役所が協力するという体制で行っています。その中で、市民主導によるまちづくりを考える機会を創出することで、市民が積極的に参画する仕組みを確立しつつあると考えます。

今後の厳しい社会情勢の中、このまちを更に発展させていくためには、市民の積極的な参画は必要不可欠です。そのためには、市民の意識と行動が能動的でなくてはなりません。今後も市民討議会の活動によって行政と市民による真の協働のまちづくりを推進されていくことを切に願います。

最後に、たじみ市民討議会を開催するにあたり討議に参加して頂いた市民の皆様、行政関係者、実行委員会の皆様に深く感謝申し上げます。



（一社）多治見青年会議所
理事長 小境邦裕

8. 終わりに

近年、「超高齢社会」という言葉をマスコミなどでもよく聞くようになりました。私自身、親や親族を見渡したとき「高齢化社会」は他人事ではなく、すぐ目の前にある現実でした。しかし、私は自分の住む多治見市の高齢化や介護の現状について何も知らないことに気が付きました。これまで意識したこともなく知ろうともしていなかったからなのですが、多くの市民も実は私と同じなのではないかと思ひ至りました。

このような思いもあり「たじみ市民討議会 2018」は、高齢化社会・介護について考える「きっかけ」作りのための仕組みをテーマにしました。

今年の参加者は例年より少なかったのですが、若い方の参加が多く活発な意見交換をしていただけました。これまで考えていなかった介護などについて、討議会が知る「きっかけ」になった方もあったのではと思います。

今回提出した提言書が市政に反映させ、市民が介護について知り、高齢化社会を身近なこととして感じてもらえること、また一人でも多くの市民が市政に対し少しでも高い意識を持つてもらえたらと思います。

私事ではありますが、私はこれまで人の上に立つということがなく、今年の実行委員長をやらせていただくことに不安しかありませんでした。オロオロするばかりで実行委員の皆さんにはとても頼りなかったことでしょう。それにも関わらず応援・協力をしていただいたおかげで最後まで投げ出すことなくここまでやってこられました。大袈裟になるかもしれませんが、この経験は私にとって人生の転機となりました。この討議会が、参加された方々にも何かしらの意味を持つものであればうれしいです。

最後になりましたが、「たじみ市民討議会 2018」を開催するにあたり力不足の委員長を支えてくれた実行委員会の皆さんに感謝します。また、この活動をサポートして頂いた（一社）多治見青年会議所及び多治見市役所の皆さんにも感謝いたします。

そして、「たじみ市民討議会 2018」に参加してくださった皆さんに厚くお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。



たじみ市民討議会実行委員会
実行委員長 後藤美貴

資料1. 話し合いシート

参加者を5～6人の単位で4グループを編成して、4つの討議テーマについて付箋に意見を書き出して頂き、グループの意見「まとめ」として発表して頂いた。

話し合いシートを以下に示す。

討議テーマ1.

介護について考える「きっかけ」作りのためには、どんな仕組みが必要ですか？

Aグループのまとめ意見	投票数
1. 学校で若い年代から介護に触れる場をつくる	10
2. 地域で自発的に介護に関わる場をつくる	3
3. 「介護の日」をつくる	4
Bグループのまとめ意見	
1. 介護ポイントを貯めて将来“楽”しよう！ 自身の介護はもちろん！医療品、介護用品にも交換できる	7
2. うながっぱと介護を学ぼう！ イベント（多治見まつり、陶器まつり、茶碗まつり、地区など）	11
3. 皆でつながる介護の輪！ 使えるメディアは何でも使う（広報、HP、ケーブルTVなど）	7
Cグループのまとめ意見	
1. 介護に関する情報提供の場をつくる	9
2. 介護サービスの充実	2
3. 世代間交流の場をつくる	2
Dグループのまとめ意見	
1. 集客イベントと連携 ⇒ターゲット家族 ・家族ぐるみで来てもらう（おじいちゃん、おばあちゃんが孫を連れてくる） ・明るいイメージデザイン 車いすや重りの器具 ・若い人から若い人へSNS等で発信 ・スタンプラリー 迷路（障害物を車椅子で）	1
2. 介護環境の見直し	5
・施設ではなく自宅での実現	
・地域ごとのコミュニケーションを密に	
・暗い→明るいイメージに	

- ・介護の必要のない体づくり
- ・ピンピンコロリを目指そう（体を動かす人と会う）

3. 障がい者スポーツでの開催・誘致 1 1

残したい意見 8

- ・いいジジイ／ババアになる

Aグループで出た意見（付箋）

1.

- ・小学校の中に高齢者がいる場を作る
- ・高齢者に先生になってもらう
- ・学校（小学生～高校生）の総合的な時間に「介護」について考える
→老人ホーム訪問／現状を知る
- ・大学のサークル／ボランティア
- ・ふれあいサロンを作って休み時間に小学生と高齢者が一緒に遊ぶ
- ・小中学生と高齢者でこれからの地域について考える
- ・生涯教育
- ・人権教育を大切にしていく
- ・高齢者と保育園を近づける
- ・助け合う心を育てる

2.

- ・区に福祉委員をつくり、青少年市民会議の中で全市の活動に広げてゆく
- ・興味がある所から介護について発信
- ・困ってからでは遅い。心を育てるのは幼児期
- ・地域、町内でのつながりづくり（買い物／声掛けなど）
- ・介護の現場を見る機会をつくる
- ・介護の現場にいる人に話を聞く（問題点／現状／今取り組んでいることなど）
- ・公民館などに若い子と高齢者が集まって話せる時間を作る
- ・若いうちから地域（町内会）のつき合いができる環境をつくる
- ・困ったときに行く窓口をつくる
- ・AED 講習を学生から受ける
- ・介護について学ぶ時間が必要（介護保険についてや福祉について考える）
- ・子どものラジオ体操を高齢者と一緒に行う
- ・ハロウィーンをやる
- ・自然に集まれる場所づくり
- ・一人暮らしが増えているので地域で集える場づくり（安否確認も含めることができる）
- ・高齢者だけでなく若い人も含めてつながりを作る

- ・町内で老人介護係を任命し、買い物、声掛け、非常時の救急手配などを担う

3.

- ・防災訓練と介護をセットで取り組む（地域で考え具体的に取り組む）
- ・介護の日をつくる（介護の日にはイベントとしてさまざまな発表の場とする）
- ・介護のステッカーを作って配布

Bグループで出た意見（付箋）

1.

- ・介護の交換
- ・もっと高額な保険料にして知るきっかけに
- ・企業と連携（スタンプラリーでポイント獲得）
- ・生協と協力して介護
- ・二世帯住宅支援（金銭面）
- ・介護ポイントカード（うながっぱポイント）
- ・介護用品へのポイント交換（医療品など）

2.

- ・イベントを企画して楽しく知る
- ・施設と連携したお祭り
- ・親子行事
- ・ゲートボール大会
- ・高齢者とのふれあいの機会をつくる
- ・うながっぱを活用
- ・人の集まる場所でのきっかけづくり
- ・多治見まつり、陶器まつり、茶碗まつり、地区のおまつりなど

3.

- ・現実を知る機会を持つ
- ・学生による介護施設訪問や一人住まい高齢者宅訪問
- ・介護に関する資格取得（積極支援）
- ・薬局、スーパーで筋肉測定や体力測定ができる（自分自身の体力を知る）
- ・介護現場の見学と介護現場の職員さんから話を聞く
- ・小学校での介護体験や高齢者からの体験学習（料理や昔の技術など）
- ・医療機関受診時に高齢者と介助者の接点を持つ
- ・高齢者の方と接する場所をつくる（学校と高齢者の憩いの場を一緒に作る）
- ・義務教育で介護について教える

残したい意見

- ・CM、ニコ超、広報を活用

- ・多治見駅で介護情報を流す
- ・マスメディアを有効利用
- ・多治見市のHPが見にくくて情報が見つけれない
- ・役割分担をネットで相談する
- ・介護制度についてネットワークなどに
- ・多治見市みんなで考える「介護の日」（11月11日）をアピール
- ・実際に介護をしている人の意見交換のサイトを立ち上げる
- ・うながっばうちわに介護の広報をする

Cグループで出た意見（付箋）

1.

- ・コンビニで介護に困っている人の話を聞けるようにする
- ・市がコンビニに資料を配布しておく
- ・市のホームページを分かりやすく
- ・電話相談窓口の明確化
- ・介護のことに困ったらここかけると良い連絡先があるとよい（市役所など）
- ・コンビニ、床屋など、誰もが利用される施設に掲示されている
- ・電話相談だけでなく訪問して相談にのってくれる
- ・情報提供の場を作る

2.

- ・民間企業と提携
- ・公共交通のバスよりタクシーの値段が少しでも安くなるような仕組みをつくる
- ・介護情報の掲示
- ・ホームセンターなどの介護用品の売場に、介護保険の認定を受ければレンタルという方法もあることを知らせる張り紙をする
- ・介護サービスの内容を表にする
- ・考えるきっかけ作りや、問題発生したときのためのサービスを充実させる
- ・コンビニが介護宅への配送サービスする

3.

- ・各地区町内会に介護に関わる部門の設置（市の情報一元化）
- ・区が主催する高齢者向けセミナーなどを開催（仕事をしている世代が集まれる時間に）
- ・半強制的に幅広い世代に接する場づくり
- ・老人センターなどを体験（60歳以上でまだ利用していない人に券を配布）
- ・病院以外のコミュニティづくり
- ・多世代の方と話す機会づくり
- ・介護について身近に感じる機会をつくる

- ・介護が必要になる世代でない人が利用する施設に介護の施設を併設する

Dグループで出た意見（付箋）

1. 体験・イベント

- ・要介護者と介護士の体験を聞ける場を設ける
- ・小中高校で車椅子や体の重み体験をする（身をもってやったことは記憶に残る）
- ・人が集まりやすい場所をつくる
- ・たまには同窓会をやろう
- ・スポーツなどのイベントにかませる
- ・イベントなどでブースを出す
- ・知っていることと知らないことを埋める仕組みを作る

2. 介護環境の見直し

- ・要介護5の人の介護が大変
- ・介護の仕事は給与に見合う仕事量ではない
- ・介護職員は大変
- ・IOTの導入で機械化（現実的ではない）人を減らす
- ・職員より利用者が自発的に動ける仕組みづくり
- ・介護職への手厚い援助
- ・いいジジイになる
- ・共助互助の関係性
- ・身近な人に介護関係の方がいれば話してみる

3. 東京五輪

- ・オリンピック後の施設を再利用
- ・東京オリパラ関連づけてウィルチェアラグビー（車椅子競技）などを開催
- ・トップ選手と普通の人が混じると広がる

残したい意見

- ・周りの理解が必要
- ・“介護”という言葉の言い換え（例）高齢化⇒老人力
- ・世代別に考える（子か孫か）



グループごとの討議の様子

討議テーマ 2. 元気な高齢者になるためには、どんな仕組みが必要ですか？

Aグループのまとめ意見	投票数
1. 健診+教習ビデオ（半強制／有償）	1
2. 幅広い年齢層が集まるサークル ・写真、カメラ、俳句、音楽、ギャンブル	3
3. 楽しく運動できる環境づくり ・ウォーキングコース、スタンプラリー、トイレの案内	7
残したい意見	9
・肉を食べよう、歯が大事（歯科検診）	
Bグループのまとめ意見	
1. 地域毎のウォーキングマップの作成 ・安全な買い物ルート ・小さな楽しみポイント	2
2. 楽しく発信できる場の作成 ・例）ウォーキングで発見した事をインスタやHPで発信	1 0
3. 情報提供の仕方の工夫 ・減塩教室⇒「だし活」	3
Cグループのまとめ意見	
1. 心と身体のコミュニケーション ・車椅子・医療機関参加型 ・誰でも参加、ワンコインで健康診断	1 1
2. 医療機関を身近に ・健診の無料化 ・タバコについて考える	0
3. 駅周辺を健康特区に ・料理教室／健康診断センターを作る ・親子料理／高齢者から学べる場所	1 1
残したい意見	2
・活動の呼びかけ（健康アプリ、動画作成、YouTube へのアップ、学校での紹介）	
Dグループのまとめ意見	
1. 自立のための食育（小・中・高から始めよう！）	1 1
2. 運動をより身近に（近所の公園に施設づくり）	3

3. 体内年齢の若返り（健診結果でポイントプレゼント） 1

残したい意見 2

- ・施設巡り

Aグループで出た意見（付箋）

1. 健診

- ・定期的な検診を強制的
- ・映像を見せる（要介護になると大変だ）

2. イベント・知識共有

- ・高齢者の方が楽しめるイベントづくり
- ・老人ホームのカジノ風のもの
- ・趣味を途絶えさせない（カメラ、お絵描き）
- ・人が集まるきっかけを作る（コミュニティづくり）
- ・健康に関する知識の提供
- ・若い世代から教育する
- ・教育水準の向上（セカンドステージ大学）
- ・医者・看護師さんからの助言

3. 運動

- ・運動できるコミュニティづくり
- ・ウォーキングコースのトイレの案内、増設
- ・スポーツができる場所をつくる（公民館などの施設改善）
- ・孫や近所の子ども（小学生）と一緒に活動（スポーツなど）
- ・スタンプラリー
- ・トイレ ハザードマップ

残したい意見

- ・食習慣を変える→お孫さんに手伝ってもらう
- ・肉を食べる
- ・野菜より肉
- ・歯が大事
- ・自分で食事を担い始める（成人から）
- ・孫や子どもと一緒に食事
- ・コンビニやスーパーなどに促進啓発チラシを配置したり、イベントをしかける
- ・医者や看護師に食事指導をしてもらう
- ・抗酸化物質を摂る
- ・車を持たなくなると活動の幅減少 車をどう持ち続けるか
- ・健診と同時に健康に対する知識の向上のシステム

Bグループで出た意見（付箋）

1.

- ・車のナンバープレートの数字合わせ
- ・さんぽルートの設定
- ・誰でも情報を知りやすく、動きやすい場を作る
- ・広い歩道や歩きやすい場所をつくる（本町通り、堤防）
- ・一人でなく二人以上でやれる習慣
- ・地区ごとのさんぽルートを作る
- ・歩けるところには歩いて行こう
- ・買い物ルート（安全）の作成

2.

- ・インスタポイントをめぐる散歩（グルメツアー、デザート、四季の花）
- ・写真募集（ウォーキング中の楽しみポイントを発見する）
- ・買い物歩きポイント
- ・習慣づけ
- ・誰かと会う

3.

- ・情報のより広い活用を浸透
- ・情報発信（欲しい時に欲しい情報、駅北ファームでも情報を発信している）
- ・楽しい事は続けられる
- ・発信力を高める
- ・地域の良さを知る、知らせる機会を広める（スマホ活用）
- ・歩ける環境づくり
- ・わかりやすい言葉でキーワード
- ・減塩教室よりも「だし活」（興味を持つためのきっかけづくり）
- ・調理方法の表示を広める
- ・楽しみ方提言
- ・広報たじみの活用
- ・元気なうちに健康づくりを楽しむ
- ・多治見市観光健康案内所
- ・「行動」の結果どんな良い事があるか、付加価値をつける
- ・情報提供の仕方を考えてみる

Cグループで出た意見（付箋）

1.

- ・ウォーキングマップ 場所への移動手段（公共バスの利用、フリーパス）
- ・ポケモンGOのように多治見市限定のモンスター集めなどで市内を歩かせる
- ・車いす（押そう）ウォーキング、病院・福祉施設ウォークラリー
- ・運動の負荷に幅を（膝に負担のかからない運動など）
- ・年輪ピックの推進（運動する機会が増える）
- ・100選マップを使つてのウォーキング大会
- ・福祉センタースタートの車いす参加型ウォーキング（休憩場所は医療機関）
- ・高齢者のために運動できる場があるので、公共施設の割引制度を設ける
- ・高齢者と若い人が接する場所を作る
- ・海外の様に道具を大量に使用できるようにする（無料で）

2.

- ・健診の無料実施、健診休暇取得の推進
- ・医療機関を身近な場所で
- ・後期高齢者の特定健診を毎年郵送してほしい
→40歳の検診は毎年郵送しているのに前年度受診した人にしか送らないのは変
- ・前回の健康診断より良くなった人を表彰（運動する、食生活改善のきっかけに）
- ・喫煙する場を分ける
- ・たばこはちょっとしたきっかけで止められる

3.

- ・グランパスメニューや目的別料理教室を休日に開催
- ・市の直営の健康食堂を作る
- ・駅近辺にカルチャーセンター、料理教室、ワンコイン健康診断センターをつくる
- ・駅周辺を健康区に

残したい意見

- ・若い世代から喫煙の危険性の学ぶ場をつくる
- ・健康づくりアプリを作成（健康のレシピ・イベント、100選マップの掲載）
- ・車いすや杖でも参加しやすいイベント
- ・参加できる環境づくり
- ・交通アクセス（バスの本数・地域拡大）
- ・活動の宣伝
- ・お祭りの合間にアピール
- ・YouTubeなどを使ってみる
- ・ケーブルテレビで健康体操
- ・学校で紹介

- ・活動紹介（楽しそう、やってみたいと思えるポジティブなVTRなどを作成）

Dグループで出た意見（付箋）

1. 学校

- ・年間を通して自分で野菜を育てて調理する時間を作る
- ・高校生の家庭科の授業で減塩スープを作って飲む機会を作る
- ・健康のため食事が物足りないと感じている人に調理方法などを教える機会がつくる
- ・スポーツ関係の人が食事指導をする（親を集めた場所で）
- ・高校生のお弁当の時間に減塩スープ配布の日をつくる
- ・義務教育で生活習慣などについて学ぶ（授業参観など）

2.

- ・75歳以上になったら体験入学と一緒にいろいろな施設巡りのバスを設置する
- ・昇降台を身近なところに作り（年寄りと子供用）毎日足腰のために飛び降りる（ウォーキングより効果あり）
- ・スポーツと健康運動は違うとの認識をする

3.

- ・毎年継続して健診を受けてもらい、前回より数値改善した場合特典を付ける
- ・特典をポイントとしてためて、食品や衣料品を買えるようにする
- ・薄味、濃い味を年代別に指導する
- ・宅配お弁当を推進

（管理栄養士が血液検査をもとに弁当を選ぶ。数値が改善されるまで管理）

残したい意見

- ・施設巡りの中に若い人も行こうと思える場所を選ぶ
- ・老人センターなどで輪ができる
- ・敬老会などは男性の参加率が低い（女性の方が多い）
- ・コミュニティなどでの会話で元気になったりする
- ・老人センターの無料利用券を配布する（利用していない人に）



投票の様子



発表の様子

討議テーマ 3. 高齢者が子どもを持つ親を支援できるようにするためには、どんな仕組みが必要ですか？

Aグループのまとめ意見	投票数
1. 介護保険のような子育て保険をつくる	7
2. 児童館や支援センターで高齢者と集う	3
3. 子育てしていく上で困っていることを知る	5

Bグループのまとめ意見	
1. 子どもが集まる場所と、高齢者のコミュニティー施設の連携 (児童館、公民館+デイサービスなど)	2
2. Mama's Café 契約の見直し (拡大)	1 0
3. ネットを使ったシステムで支援してほしい親と支援できる高齢者をつなぐ	0
残したい意見	4
・町内会などでコミュニケーションをとる	
・買い物代行システム	

Cグループのまとめ意見	
1. 高齢者に情報提供 (窓口を作り動きやすい環境、カリキュラム作り)	8
2. 高齢者が支援できることを見つけてあげる ・食事の作り置き、一緒に手料理、見守り隊、便利屋、家事代行など	4
3. コミュニケーションの居場所作り (公民館、集会所等利用)	3
残したい意見	2
・高齢者自身が心と体が豊かになる	

Dグループのまとめ意見	
1. 空き家を利用して近くで子育て支援できる場所を大量に作る	1 4
2. 高齢者による学習支援・見守りの環境づくり	5
3. みんなに届けよう、子育て支援	0
残したい意見	1 2
・ふるさと納税で基金集め	

Aグループで出た意見 (付箋)

1.
 - ・公的な事業を行政直轄からNPOへ
 - ・行政が直接活動出来ないか

- ・支援が必要になる前から高齢者と親との交流の場をつくる
- ・児童福祉の窓口が多すぎる
- ・子育てサービスの充実（金銭面）
- ・高齢者と同様のサービス（買い出し・調理）などが受けられないか

2.

- ・支援センターと高齢者配置
- ・子育て支援センターに高齢者がボランティア（少し有償でもよいので）で行ける
- ・子育て推進委員が増えて、地区の新米ママと顔見知りになれる機会がある

3.

- ・福祉風呂は高齢者（介護）向けで赤ちゃんには使えない
- ・母親が息を抜ける場所をつくれないうか（入浴・昼寝）
- ・子育てで困っていることを知る
- ・美容院に行く間の支援
- ・一人目の出産後に保健師訪問回数を増やす
- ・外に出る機会をつくる

残したい意見

- ・小さく密なネットワーク
- ・世代を超えて参加できるイベントで関わりの場（人を知る場）をつくる
- ・出産から幼稚園入園まで、母親が孤独になりやすい

Bグループで出た意見（付箋）

1.

- ・普段から困った時に頼れるつながりをつくる
- ・児童館や公民館を高齢者のコミュニティと子どもが集まる場にする
- ・高齢者と公民館、児童館などの施設との連携
- ・公民館をコミュニティセンターにする（例）富山市小見（施設内も充実させる）
- ・シルバーボランティア（〇〇のプロフェッショナル）
- ・子ども 110 番の家との連携
- ・児童館と福祉施設の合体を進める（交流の場増える）
- ・学校保育園などと老人向け施設の合併
- ・金八先生の第五シリーズの事例

2.

- ・Mama's Café が対応（できる場を広げていけると良い）
- ・市との契約内容の見直し（ファミサポのような組織）
- ・病児対応の契約見直し
- ・Mama's Café の活動範囲の拡大

3.

- ・シングルマザーへの手厚い支援（若い同じ年代の人との交流の場）
- ・給食費のサポートができるようにする
- ・困っていること、助けてほしいことを発信できるシステム
- ・ポータルブログで発信し、市が仲介をして高齢者をつなぐ
- ・実際に困っている人の声を聴く機会
- ・Mama's Café や市が運営する シングルや高齢者などの相談しやすい環境づくり

残したい意見

- ・町内会の総会に議題として挙げる
- ・買い物代行（緊急だけでなく定期的に固定化する）
- ・買い物に行けない人のため、市と連携し車での食品販売をする

Cグループで出た意見（付箋）

1.

- ・高齢者に広報たじみなどを使って現状を知ってもらう、
- ・地域情報誌「おりべ」に情報をのせる
- ・高齢者に親の支援が必要と知ってもらう
- ・こども 110 番があるので、そこに子供と一緒に預けられないか
- ・窓口をつくる
- ・高齢者と親をつなぐ窓口をつくる
- ・他人の子どもだからと遠慮してしまう
- ・子ども相手は結構疲れる、カリキュラムを作って支援する
- ・カリキュラムをつくる
- ・組織に的に確立してその組織を通じて支援する

2.

- ・一週間の食事の作り置き（ちょっとの手間でおふくろの味が味わえる）
- ・親子で参加できる手料理カフェ（持ち帰りもそこで食べることもできる）
- ・高齢者と子どもで一緒に料理を作る
- ・全市的に支援すべき所をピックアップ
- ・高齢者一人ではなく皆が集まって食事を作って配る
- ・買い物代行、買い物ワゴン
- ・高齢者による喫茶店を作り親が客として利用
- ・見守り隊のような仕組みを作る
- ・シングルマザーの家庭に父親役として関わる
- ・高齢者による便利屋さん
- ・高齢者を指導員として子どもをサポート、母親の負担軽減

- ・家事代行サービス（おふくろの知恵）
- ・庭の草むしりなどをしてあげる
- ・二世帯住宅支援
- ・多治見で二世帯で住む金銭的メリットをPR
- ・シングルマザーが多いので学生支援などが必要

3.

- ・子どもの悩みについて相談できるようなサイトを作る
- ・子どもの見守りだけでなく、親と話して相談できる
- ・子ども 110 番で親が相談できたり、風邪を引いたときなどに面倒をみてもらえる
- ・子どもの居場所づくり（小学校から高校生までOK）
- ・勉強を大学生がみて、食事、昔の遊びや送迎を高齢者が担う
- ・「地域大家族」公民館などの居場所づくり
- ・公民館などに給食室のようなものを作る
- ・子どもの中での教えあいが無くなっていった

4.

- ・報酬を出す
- ・高齢者自身の心や暮らしが楽しくなる
- ・子どもが周りに減ってきている
- ・おじいちゃんと孫と一緒に住んでる家族が減っている
- ・変な使命感を持たずに気楽に参加
- ・身内の支援はどうする
- ・身内には手を出しやすいが他人には難しい
- ・高齢者なら親の気持ちが分かり、サインに気付ける
- ・男にはなかなかできないことが多い

Dグループで出た意見（付箋）

1.

- ・悩みを気軽に話せるスペース作り
- ・グチ聞きスペース（認められスペース）
- ・場所の提供（高齢者）
- ・空き家を利用して、子供と高齢者が集まる場をつくる
- ・空き家を活用することで場所を作る
- ・保育園幼稚園などでの保護者交流会

2.

- ・学習支援と食事ができる
- ・学童保育、通学路、公民館で高齢者が活躍できる場を作る

- ・見回り隊、朝の声掛け、挨拶運動、朝夕の通学路、一緒に遊ぶなどを高齢者が担う
- ・子どもと一緒に遊んだり、見守りをする
- ・貧困層の子どもたちに食べる場所の提供や勉強場所の確保
- ・コンビニやスーパーでの食事支援
- ・生協の「おたがい様東部」で支援（1時間 800円）

3.

- ・町内掲示板で発信する
- ・受付窓口を増やす
- ・児童センター、学校や公共施設で宣伝
- ・LINE グループを作る
- ・学校の連絡帳に連絡先（施設など）が貼れるようにプリントを配る
- ・悩みを聞く会のチラシをバラ撒く
- ・サービスの発信手段 誘致手段を作る
- ・掲示板を作る
- ・簡単な掲示板を町内に作成し、広報紙配布と共に活用する

残したい意見

- ・ふるさと納税で基金集める

討議テーマ 4. 高齢者の知見と経験を次の世代に引き継ぐためには、どんな仕組みが必要ですか？

Aグループのまとめ意見	投票数
1. プロジェクトT～過去に学ぶ～	3
・映像や本などに伝えたいことを残す	
・例) 多治見橋を作った 50 人の男たち	
2. 世代間で体験会などを通して交流を図る	1 1
・利き酒バー／お茶会	
・昔遊び	
・伝統工芸	
3. セカンドステージ大学を作る	9
・各々得意な分野で講座を作る	
・大学生には単位を	
残したい意見	1
・会社の設立（社員は 65 歳以上）	

Bグループのまとめ意見

- | | |
|------------------------------------|----|
| 1. 多治見の魅力を体験型で伝える | 0 |
| 2. 各地域の歴史／文化を高齢者によって次世代に伝える | 2 |
| 3. 多治見の文化・技術・伝統を映像やデータに残し、国内外に発信する | 14 |
| 残したい意見 | 0 |
| ・コミュニティやイベントを通して高齢者の経験等を次世代に伝える | |

Cグループのまとめ意見

- | | |
|--------------------|---|
| 1. 知識と経験を引き出す | 3 |
| 2. 知識と経験を活かせる場所の宣伝 | 1 |
| 3. 若い世代を巻き込む | 7 |
| 残したい意見 | 1 |
| ・地域の活動を活発に！ | |

Dグループのまとめ意見

- | | |
|--------------------------|---|
| 1. 知見と経験を知る | 7 |
| ・データベース化 | |
| ・65歳以上へのアンケート | |
| ・需要先からの要望 | |
| 2. 多治見の産業を知るカルチャースクールの作成 | 5 |
| ・スーパーなどと協力して場所を作る | |
| 3. 国外への情報発信 | 6 |
| ・国内だけでなく、国外への技術提供 | |
| 残したい意見 | 0 |
| ・次世代への意欲向上 | |
| ・マイスター制による技術の付加価値を作る | |
| ・ハローワークで職業体験 | |
| ・農業体験 | |

Aグループで出た意見（付箋）

1. 記録・映像

- ・映像化「プロジェクトT」
- ・マニュアル化、映像化し、伝統工芸を残す
- ・本／WEBメディアに「伝えたいこと」を書いたり、技術的なコツなどを出版
- ・災害についての知識を広める（本、話）
- ・危険ゾーンを伝える

- ・おじいちゃんおばあちゃん主役の映画を作る
- ・過去に学ぶ／歴史を知る

2. 交流・体験

- ・小学生の頃に来てもらった野鳥観察会のおじいさん
- ・世代間交流（お酒を飲んで語ろう）
- ・お茶会（女の子向け）
- ・川あそび、山あそびをする
- ・小学校での昔遊び
- ・伝統工芸、芸能の体験
- ・世代間相互の研修（1年のカリキュラム作成）

3. 講座

- ・シルバー人材センターのコミュニティ化
- ・知識や能力を伝えるため、能力ごとにサイトをつくり質問者と高齢者をつなぐ
- ・講座や体験を各個人で聞き、募集できるサイトを作る
- ・市や企業とつなげる。ネットが苦手な高齢者をピックアップする
- ・「高齢者」講師になる
- ・「若者」講師になる
- ・セカンドステージ市の「大学」
大学に行きたかったけど行けなかった高齢者が学生にも講師にもなれる場所
- ・単位をもらう事ができるようにする
- ・各個人で講座を市がサイトをつくり募集する
- ・畑や物作りなど
- ・各教育機関の特別講師、部活動の顧問

残したい意見

- ・会社の設立（高齢者→次世代）

Bグループで出た意見（付箋）

1.

- ・美濃焼で海外ビジネス
- ・教室を開く
- ・小さい頃からふるさと多治見体験
- ・気軽に参加できるイベント作り
- ・言葉を収録してAIに活かす
- ・アーカイブを作る
- ・イベントのドキュメンタリーを作る
- ・美濃焼文化を発信する（食とも融合）

- ・子どもと高齢者で温かいコミュニケーションをとる場所を作る
- ・ぬくもりを残したい（一緒に～をしたという体験）

2.

- ・高齢者の知識を加えた歴史マップを作る
- ・伝統的な文化を伝える
- ・地域の歴史を次世代に伝えていく
- ・歴史を伝える映像
- ・地区でなく、全体での集まりの場を作る
- ・語り部となって講演する

3.

- ・高齢者の知識を知るきっかけを作る
- ・ベンチャー企業をおこす
- ・海外に売り出し、収益を上げ次世代を呼び込む
- ・若い人たちに魅力を伝える
- ・世代を超え同じ感動体験の場を作る
- ・地域の歴史書を作って伝える

残したい意見

- ・密接なコミュニティを生かしてイベント
- ・コミュニティが拡大する傾向（町内の合併）
- ・地域内のつながり
- ・子どもに仕事の経験を生かした教育（宿題見ながら興味のある話をする）

Cグループで出た意見（付箋）

1.

- ・知らないことを教えてもらえる人がいる
- ・小学校での昔遊び、地域学習、歴史学習、職業体験など
- ・シルバー人材派遣（professional）の強化（技術職、教育職など）
- ・学童保育などで地域の歴史などを話す
- ・高齢者のアイデアの吸い上げ
- ・観光地の案内（体験談を交えて）
- ・高齢者のお勧め本のコーナーを図書館にする
- ・書籍、文集、自伝、HOW TO 本を集める
- ・小学校で昔遊びの先生として教えてもらう
- ・体験談のアーカイブ（戦争と日本の復興、万博、五輪など）
- ・市議会の傍聴を経験することから始める（多治見がどう動いているのかを知る）
- ・公民館で町内の文化祭

- ・地域の空き屋で座談会
- ・高齢者の作品販売（達成感・充実感・自己肯定感）
- ・小学校で地域の名人に話を聞いて新聞作り
- ・昔の暮らしや伝統文化について話してもらう
- ・語り部をつくる（歴史、市のおい立ちなどを語りつないでいく）
- ・文化、スポーツ昔の街並みなどささいな事でも語り部になれる

2.

- ・業者、教育機関への宣伝強化（多治見市に限らず）
- ・社会保険事務所に定年手続きにきた方向けにシルバー人材の案内など置く
- ・高齢者の集まる場に宣伝広告
- ・地域コミュニティの充実・宣伝

3.

- ・つながりができれば良い環境になる
- ・つながりのできる場の提供
- ・サークルの充実（若者と触れ合える）
- ・若い人と高齢者の間に会話のギャップが生まれる
- ・若い人が高齢者のコミュニティに入りこめる工夫
- ・喫茶店のコーヒーチケットが報酬になったりする

残したい意見

- ・市内全区の活動がおとろえてきている
- ・行政任せになり過ぎている。地域ですべきことは地域です

Dグループで出た意見（付箋）

1.

- ・地元どんな仕事があるかを知ってもらう
- ・誰が、どのような知識を持っているのかデータベースが必要
- ・どの高齢者がどんな知識・能力・技能を持っているか、誰がそれを求めるか
- ・高齢者の能力を知るものをデータベース化（アンケートを行う）
- ・引き継ぎの道場を作ってはどうか

2.

- ・伝統技術の継承（体験型施設をつくる）
- ・多治見の産業を知る施設をつくる
- ・絵付職人が少ないので学生などに体験する機会をつくる

3.

- ・外国語ボランティアの発掘
- ・外国人向けのサービスを増やす

残したい意見

- ・後継者がいない（身内に）
- ・在宅ワークでできる仕事を増やしてほしい
- ・一つの事を極めていけばそれが仕事
- ・シルバー人材センターは有料で割高
- ・再雇用を促す（企業に積極的助成金を出す）
- ・市が多治見市の地場産業や農業体験をさせるプロジェクトを作成
- ・ハローワーク就職を斡旋
- ・若い人に興味を持ってもらうため職業体験をしてもらう
- ・マイスター制を地域に広める

資料 2. 参加者アンケート

参加者全員にアンケートへの回答をお願いし、以下のような結果を得た。

設問 1. 参加動機についてお聞かせください（複数回答可）

テーマに関心があったから	9 (45%)
新しい市民参加型だから	3 (15%)
無作為抽出で選ばれたから	8 (40%)
その他の理由	1 (5%)

自由記述（主なもの）

- ・40代 男性 こんな機会はなかなかない
- ・60代 男性 私の専門分野以外に関して協力しようと思った
- ・30代 女性 多治見が好きだから。祖母が要介護者だから

◎参加者の多寡はテーマの設定に大きく左右される傾向にあるといえる

設問 2. この討議会は、市民の声を行政に伝える手法として適していると思いますか？

適している	13 (65%)
分からない	7 (35%)
適していない	0 (0%)
その他・無回答	0 (0%)

◎過半数は適していると考えているが、反面良く理解できてない参加者がいることも無視できない

設問 3. これまでに地区懇談会など、市が主催する討論の集まりに参加したことがありますか？

ある	4 (20%)
ない	15 (75%)
無回答	1 (5%)

◎関心が無いのか、時間的な制約があったのか

設問 4. 市民討議会に限らず多治見市の市民参加の企画に今後も参加したいと思いますか？

参加したい	2 (10%)
都合が合えば参加したい	18 (90%)
参加したくない	0 (0%)

◎参加したくないという否定的意見はないが、積極的な参加意思は少数

設問 5. より具体的な感想（意識の変化）をお聞かせください（複数回答可）

参画意識がより持てた	10	(50%)
積極的に行動すべき	9	(45%)
行政に関心が持てた	3	(15%)
特に変化はない	3	(15%)

自由記述（主なもの）

- ・ 40代 男性 とりあえず楽しかった
- ・ 60代 男性 参加してまず市民が知識を吸収すべきだと思う
- ・ 10代 男性 多治見について知る機会になる
- ・ 20代 女性 自分が今まで知らなかった活動のことを知り勉強になった
行政に任せるだけでなく市民自ら声を発することで問題解決につなげることが大切だと思った
- ・ 30代 女性 とても良いアイデアを持っている方々がたくさんいると思った
- ・ 30代 女性 多治見市のことをあまり知らない
- ・ 20代 男性 超高齢社会について今まで考える機会が無かったため、良い経験であった
- ・ 50代 男性 いろいろな世代の意見や知識を知る事ができて良かった
- ・ 20代 男性 一市民として行政に関わるという意識は無かったが今回初めて関わったように思え、貴重な経験となった
- ・ 50代 男性 多治見市に協力できることがあればと思う
- ・ 40代 男性 討議を元にした提言に対する具体的な進捗が示されており「やりっぱなし」ではないことが分かり関心が高まった
- ・ 40代 女性 もっと多治見を知ってもらえるよう行動したいと思う

◎概ね積極的な行政への関与を示すが、今後行動に移すか疑問

設問 6. 今回市民討議会の謝礼についてどのように感じますか？

あった方がよい	15	(75%)
ない方がよい	1	(5%)
その他	4	(20%)

◎概ね謝礼を支給する意義は理解されている

設問 7. 今後、市民討議会の討議テーマにした方がよいと思うテーマや、日頃関心のあ
るまちづくりに関する事項がありましたらお聞かせください。

自由記述（主なもの）

- ・ 40代 男性 都市計画（含駅北）／道路・渋滞について

- ・ 50代 女性 住みたい街多治見
- ・ 10代 男性 多治見市の子育てについて
- ・ 30代 女性 「暑い」を利用したイベント
- ・ 20代 男性 多治見の伝統工芸を無くさないためにどうすべきか
- ・ 30代 男性 過ごしやすいまちづくり
- ・ 70代 男性 多治見の観光
- ・ 60代 男性 市の活性化に対して
- ・ 20代 男性 防災、減災に関して
- ・ 20代 女性 お金について

◎過去に取り上げたテーマもあるが、新たな観点から参考にしたい

設問 8. 討議会のスタッフとして参加してみたいと思いますか？

参加したい	3 (15%)
参加したくない	3 (15%)
分からない	12 (60%)
無回答	2 (10%)

◎積極的に参加したいは少数だが、活動内容を丁寧に説明し積極的な勧誘を行う



